授業科目　地域看護学実習Ⅰ

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	看護
小山　歌子、宇田　優子、杉本　洋　他	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	3	時間数	135

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	◎

【概要・一般目標：GIO】

地域で生活するあらゆるライフサイクル、多様な健康レベルにある個人や家族・集団を対象に、公衆衛生看護の理念に基づいた保健師の地域看護活動を実践する基礎的能力を修得する。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．地域の特性をふまえた保健医療福祉計画を理解する。
2．地域で顕在、潜在している健康課題を考察する。
3．各種保健事業等を通して保健事業の意義と、行政保健師が果たしている役割を考察する。
4．個人、家族、集団を対象に看護活動を実施する。（家庭訪問、健康相談、健康教育）
5．地域で生活する人々と健康課題解決に向けたパートナーシップと協働活動を理解する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	1．地域の特性をふまえた保健医療福祉計画を理解する。	1～3	実習
	（1）既存資料により実習地域の概要をとらえる。		地域看護領域全教員で担当する
	（2）地区踏査を行う。		
	（3）参加した保健事業の中で住民の方々の声などを聴く。		
	（4）オリエンテーションで地域概況や地区特性、地域保健計画、保健事業計画の説明を受ける。		
	（5）上記（1）～（4）によって得た情報から地域看護アセスメントを実施し、地域特性や地域の顕在的および潜在的な健康課題を抽出する。		
	2．地域で顕在、潜在している健康課題を考察する。	1、2	
	（1）実習地域の各種計画、オリエンテーション、保健事業への参加から考察する。		
	3．各種保健事業等を通して保健事業の意義と、行政保健師が果たしている役割を考察する。	1～3	
	4．個人、家族、集団を対象に看護活動を実施する。（家庭訪問、健康相談、健康教育）	4	
	（1）個人・家族、集団を対象とした保健活動		
	（2）連携・協働・調整		
	5．地域で生活する人々と健康課題解決に向けたパートナーシップと協働活動を理解する。	5	
	（1）地区組織活動等の参加から理解する。		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）				
参考書	国民衛生の動向	厚生統計協会	厚生統計協会	既に購入しているもの
その他の資料	地域看護学で活用したテキスト・配布資料の全て			

【評価方法】

出席状況，実習態度，実習内容（実習目標の到達度），レポート（実習記録等を含む）

【履修上の留意点】

問題意識を持って、主体的に、積極的に実習に臨むこと。